ベネディクト十六世の使徒書簡

『教会博士に宣言された教区司祭、アヴィラの聖ヨハネ』の要約

2012 年 10 月 7 日にローマのサンピエトロ広場で教皇ベネディクト十六世より、二人の聖人が教会博士に宣言されました。一人はドイツのベネディクト会修道女ビンゲンの聖ヒルデガルトであり、もう一人がスペインのアヴィラの聖ヨハネです。このアヴィラの聖ヨハネについて教皇ベネディクト十六世が使徒書簡を 10 月 7 日付けで発行しましたので、それを要約してお知らせします。

≪要約＞

1. 「キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです」（第二コリント人への手紙　　5:14）。キリスト・イエスのうちに示された神の愛が、聖なる教師アヴィラの聖ヨハネの個人体験を通して教えになり、福音宣教者になっていきました。常に聖書に基づいて真理に情熱を傾けながら、「新しい福音化」のために熟考していました。彼に働いた第一の恩恵は、神の愛に応じた霊性促進と聖性への招きです。それに基づいた事業としてキリスト教養成のための大学をハエンのバエサに設立するなど、多くの養成機関を設立して現在までその影響をみることができます。

2. アヴィラの聖ヨハネは、1499 年か 1500 年の 1 月 6 日にトレドから比較的近いアルモドバル・デ・カンポでアロンソ・アヴィラとカタリナ・ヒホンの一人子として生まれ、ハイクラスの社会の中で生活します。両親はキリスト信者です。14 歳のときにサラマンカ大学に法律を学びに訪れますが、第四コースを始めるに当たって勉強を中断します。それは　彼の深い回心のときであり、深い考察と祈りのうちに自宅に帰ります。

1520 年に司祭になる目的でアルカラ・デ・エナレス大学に教養課程と神学を勉強する　ために訪れます。この大学は当時ルネッサンスのヒューマニズムを教えていました。　1526 年に司祭に叙階されアルモドバル・デ・カンポで初ミサを行いました。そのとき、彼はインディアン（当時の新大陸を指す）に宣教へいく目的を持っていましたので、自分の財産を貧者に分け与えました。その後、メキシコへ渡るためにセヴィリャへ向かいます。

　このセヴィリャでアヴィラのヨハネの生活と説教に魅せられたフェルナンデス・デ・コントレラスの願いによりセヴィリャの大司教からアンダルシアに留まるように願われたヨ　ハネは、アメリカ行きを断念します。アンダルシアの司牧宣教する傍ら聖トマス学校で神学の勉強を続けます。そのようなときに、1531 年に彼の説教が中傷を受け、牢獄に入れられてしまいます。この牢獄で"Audi, Filia"の最初のバージョンが完成します。この作品を書き上げる中で、神の愛の神秘に深く入り込み、贖い主イエス･キリストの人間性から大きな利益を受け取り、彼の霊性の中心になっていきます。

1533 年に無罪が表明され、以前にも増してすばらしい説教を行い続けます。その彼は　コルドバ教区への移籍を望み実現しますが、その直後にグラナダの大司教に呼び寄せられてグラナダの大学で研究をやり遂げます。

アヴィラの聖ヨハネは、良き養成者であり、際立った神学者であり、真のヒューマニストでもありました。そのことを生かしながら多くの教育機関設立をします。特に子どもの信仰教育と司祭養成機関の設立に寄与します。トレント公会議後は、神学校に変わったところもあります。またバエサに大学を設立し、多くの聖職者や世俗者が養成を受けました。

その後、アンダルシアを説教しながら巡り歩き、病気になった後は、1554 年からコルド　バのモンティリャで過ごすことになります。ヨハネはそこでいくつかの作品を作り上げ、　たくさんの文通を通して使徒職に従事していました。グラナダの大司教はトレント公会　議に彼を連れて行くことを望んでいましたが、健康を理由にそれはかないませんでした　。しかし、教会に影響を与える作品"Memoriales"を編集します。その後、弟子たちと友人に囲まれて大変な痛みと十字架を手にして霊魂を御主に捧げました。時は 1569 年 5 月 10 日の朝のことでした。

3. アヴィラの聖ヨハネは、同時代の偉大な聖人たちの友人であり、忠告者でもありまし　た。聖イグナチオ・デ・ロヨラの友人でもあったのです。彼は出来ればヨハネに生まれたばかりのイエズス会へ入会することを希望していましたが叶えませんでした。しかし、のちにヨハネの多くの弟子たちがイエズス会に入会します。神の聖ヨハネは病院修道院を創立しますが、彼もアヴィラの聖ヨハネの説教を聴いて回心した人であり、後に修道院創立のときに助言を受けています。聖フランシスコ・デ・ボルハもアヴィラの聖ヨハネによって回心した人ですが、後にイエズス会士になります。ヴァレンシアの大司教聖トマス・デ・

ヴィリャヌエバはヨハネの要理教育方法を広めた人です。その他に知人としてアルカンタラの聖ペドロ、バダホスの司教リベラの聖ヨハネもいます。すでに教会博士であるアヴィラの聖テレサが自分の『自叙伝』の検閲をお願いした人がアヴィラの聖ヨハネであり、もう一人の教会博士十字架の聖ヨハネはバエサでアヴィラの聖ヨハネの弟子との接触で多くの影響を受け取っています。

4. 今日においての彼の影響を記憶は、彼の生涯と作品にあります。古典的な霊性書である"Audi, Filia"は彼が考察し、最終的に彼の晩年に最終版が発行されます。カテキズムの作品は"Doctrina Cristiana"を発行しますが、これは彼が唯一生前に出版したものです（1554 年出版）。『神の愛の論文』は、彼の作品の中でも貴重なものであり、キリストの神秘に深く考察したものです。『司祭職についての論文』は、実践的な短い作品です。この作品の中には説教と手紙を含んでいます。そのほかに小作品があります。『霊的生活のための忠告』がありますし、『改革のための論文』はトレント公会議と地方教会会議との関係を持っています。そのほかに説教集や手紙集、ガラテヤの手紙からヨハネの第一の手紙までの解説などが残っていますが、この聖書の手紙集は聖書内容を深めた司牧的価値のあるものです。アヴィラの聖ヨハネは、当時の複雑な時代の中の教会に息吹いていた聖霊がヒューマニズムの文化の中で霊性の新しい道を切り開いていくことを注意していました。

5. 彼の教えの中には、常に聖性に導く洗礼とキリストの贖いが現れてきます。キリスト者　の霊的生活が、三位一体の神の生命の交わりに参加することによって、すなわち神の愛のうちに信仰によって参加することによって、神の善性と憐れみに基礎を置くように彼は説明していきます。それに加えてこの生活が出来るのが、キリストの功績によるものであり、神の愛によるものであり、聖霊に動かされたものであることも説明します。「あなたの御主にあなたの小さな心の扉を開けなさい。父なる神がわたしたちにご自身の御子を与えた愛の広大さをもって、御子と共にご自身をわたしたちに与えつくしたのです。聖霊も、すべてのものも」（手紙 160）。また、「あなた方の隣人も、キリストに触れているものです」（手紙 62）と言い、「あなた方の御主への完全な愛の証しは、隣人への完全な愛です」（手紙 103）と言う。愛の観点ですべてを明らかにしていきます。

　聖三位一体の神殿になることに関しては、わたしたちの中に神の生命が息づいている　ことを鼓舞しますし、神と隣人との和解のプロセスとして心を統合していきます。心の　歩みは単純さの歩みであり、善性への歩みであり、愛の

歩みであり、神の子どもとなる歩みです。聖霊に従う生活は教会と共にキリストの同伴者になる道です。これは Audi Filia の中心テーマです。また、キリストの同伴者というテーマは聖母マリアの霊性でもあります。聖母が聖霊の下でキリストと共に歩みながらキリスト化された歩みであり、諸徳のプロセスであり、マリアをモデルとも母とも仰ぎ見ることです。福音宣教の霊性の次元が、教会的でありマリア的であることを示しているのがアヴィラのヨハネの作品に見ることが出来ます。また観想から始まる使徒職への招きであり、聖性への道でもあります。また聖人たちへの信心も勧めます。「偉大な友人は神ですが、彼はわたしたちに聖なる友人たちを持つように勧めます。それが聖人たちです」（手紙 222)。

6. もしこのアヴィラの教師が聖性への普遍的召命を確信した開拓者ならば、彼の司祭職の霊性の多くから、司祭職についての体系的教えに対してインスピレーションを与えてきました。そして在俗司祭の間でキリスト教神秘への案内者とも考えることも出来ますし、彼の影響は多くの霊的著作家に与えているのです。

アヴィラの教師の中心的確信は、司祭は「ミサの中で、わたしたちを祭壇の上に置き、　キリストのペルソナの中で贖い主の務めをするのです」(手紙 157) と言います。キリストのペルソナのうちで行うことは、神の父性的愛と母性的愛を受肉させることを意味します。霊の貧しさをもって、「静粛な」説教台へ向かい、祈りと研究を持って準備して、イエス･キリストの花嫁である教会を愛しながら、御言葉とエウカリスティアの祭儀を頻繁に行うように、すべての司祭たちに求めます。

司祭職養成を良くするための探求の中で、聖職者の聖性と教会生活の必要な養成は　アヴィラの教師の深い関心ごとでした。司祭の聖性は教会を形成するために必要不可欠だったのです。したがって、司祭職の適切な養成を自分に課していました。結果は神学校をつくり、聖書の研究をするための特別な学校をほのめかしてもいました。この提案は現在の教会で実現しています。

彼の行ったことの中では、バエサの大学が設立されたことがこの意図の中に含まれ　ています。なぜならよい初期養成を提供することが出来たからです。聖職者たちに司牧と共に肯定的な神学の研究を提供できましたし、数世紀の間に司祭のための学校のオリジナルとして提供できたからです。

7. 彼の聖性が次第に人々に知れ渡り始め、1623 年のトレドの大司教区の中で列福の動　きが始まります。1731 年まで証人たちへの取調べが行われ、トレドの大司教からローマへ同年に情報を送られました。1742 年 4 月 2 日の教皇ベネディクト 14 世の教令によって、アヴィラの教師の作品が承認され、その教えが賞賛されます。1759 年 2 月 8 日に教皇クレメンス 13 世に英雄的な諸徳を行ったことが宣言され、1894 年 4 月 6 日に教皇レオ 13 世によって福者の列に加えられました。その後、教皇パウロ 6 世によって、1970 年 5 月 31 日に聖人の列に加えられ、さらに 1946 年に教皇ピオ 12 世によって、その司祭職の姿にスペインの在俗司祭の保護者と宣言されました。

彼の活動中につけられたタイトル「教師」という名前は、数世紀にわたってアヴィラの　聖ヨハネにつけられ続けましたし、聖人への宣言のときには教会博士への可能性を裏付けることになりました。1970 年当時のスペイン司教協議会のタラゴナ大司教のドン・ベンハミン・デ・アリバ・イ・カストロ卿より、聖座に彼の教会博士への申請が決定されて以来、たくさんの申請がなされました。

一人の聖人の教会博士への宣言は、聖霊から与えられる知恵の一つのカリスマが認　められる必要があります。教会の善と神の民への教えの言及ですが、事実アヴィラの聖ヨハネの作品とパーソナルの中に明らかに示されています。これは同時代の人々の中でも神学者、霊的識別者、霊的指導者としてよく知られていました。彼によって、偉大な聖人たち、罪びとたち、知識者、貧者、金持ちも援助されていました。また彼の教えを通してキリスト教メッセージの理解も助けられました。また司教や博学な修道者たちも彼によって霊的指導者、説教師、神学者として導かれ、際立った影響を与えた人もいます。

8. アヴィラの教師は大学の教授として教えませんでしたが、大学の設立に多大な働きを　しました。また彼は神学の体系化をしませんでしたが、彼の神学は祈りがあり、知恵があります。トレント公会議に送った el Memorial の中では、祈りと神学のつながりに二つの根拠を置いています。神学的知識の聖性、教会の利益と教化です。真実のヒューマニストであり現実のよい理解者として、生活に近づける神学を持っていて、その時代に応えられる神学を持っています。アヴィラのヨハネの教えは、知性とその深さによって際立っています。秩序だった研究の実りと深い超自然的な体験によって裏付けられています。そして彼のたくさんの手紙がイタリア語、フランス語、英語の訳されています。彼の聖書の深い知識も際立っています。すべて人が聖書を見ることを望んでいた人で

もあります。聖書についての読書を勧める説教や説明があることは疑いがありません。聖書の編算バージョンを照合していましたし、文字と霊的な分析も行っていました。教父の聖書解説も知っていましたし、祈りと研究に必要な啓示を受けるために重要であると確信していました。このように伝統と教会の教えの感性に基づいていました。旧約聖書からは、詩編、イザヤ書、雅歌、新約聖書からはヨハネ文書とパウロ文書を引用していました。

9. アヴィラのヨハネの教えは、疑いなく、確かで持続的なメッセージを含んでいますし、　信仰を確かなものにし深めることに寄与します。また次世代の教えや生活を照らすものでもあります。彼の卓越した教えは、今日の教会に対する聖霊の賜物、真のカリスマを寄与します。現代の多くの教会公文書に出てくるキリストの恵みと神の愛の首位性は、今日の霊性、今日の神学によって強調されている次元の一つです。『世界代表司教会議第 13 回通常総会　提題解説 2011 年』の中に、「福音の御言葉を豊かな方法で伝えるために神の深い体験をさせること要求します」と書かれていますが、この「福音宣教者」は謙遜にこの姿を現します。

10. 2002 年にスペイン司教協議会が、『アヴィラのヨハネの作品の中の卓越した教えについての研究』（仮称）をバチカンの教理省に送り、翌年 2003 年に教皇ヨハネ・パウロ 2 世に枢機卿、司教、修道会の長上、使徒的会や運動体、大学の責任者たち、また個人的にもスペインの司教協議会と一致してアヴィラのヨハネの教会博士嘆願をしました。

　バチカンの列聖省にも再び一連の書類を提出し、報告評定官を任命する中で、対応するポジションを練る必要がありました。この仕事を終えて、スペイン司教協議会の会長と教会博士のための委員会会長が、2009 年 12 月 10 日に、アヴィラのヨハネの教会博士への決定的な嘆願書にサインしました。2010 年 12 月 18 日に同省の顧問神学者たちの投票も通過し、2011 年 5 月 3 日に拡大枢機卿会と同省の司教たちの投票も肯定的結果を出しました。そして、2011 年のワールド・ユース・デーがマドリードで開催する中で神の民に次の年の 2012 年にアヴィラのヨハネを教会博士に挙げることを伝えました。翌 2012 年 5 月 27 日の聖霊降臨の日に、10 月 7 日にアヴィラのヨハネの教会博士宣言の予告をしました。

これにより今日、神の助けと教会の承認のもとにアヴィラの聖ヨハネの教会博士の宣言が実現しました。